

報告書抄録

ふりがな	あいだにくまはらいせき に・あいだにてらまえいせき・あいだにしもむらいせき							
書名	相谷熊原遺跡Ⅱ・相谷寺前遺跡・相谷下村遺跡							
シリーズ名	農地環境整備事業関係遺跡発掘調査報告書2							
編著者名	松室孝樹・重田 勉							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			公益財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2				
発行年月日	平成27年(2015年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
あいだにくまはらいせき 相谷熊原遺跡	しがけん 滋賀県	205	140	35° 04' 30"	136° 19' 00"	20090413 ～ 20100331 20100405 ～ 20101222	4,140㎡	農地環境 整備事業
あいだにてらまえいせき 相谷寺前遺跡	ひれおうみし 東近江市	205	149	35° 04' 40"	136° 19' 10"	20111215 ～ 20120330		
あいだにしもむらいせき 相谷下村遺跡	えいげんじ あいだにちゆう 永源寺相谷町	205	150	35° 04' 40"	136° 19' 20"	20121205 ～ 20130116		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
相谷熊原遺跡	集落	縄文時代 (草創期～晩期)	土坑墓・土器棺墓		縄文土器・石器			
			小穴・土坑					
相谷寺前遺跡		中世	小穴・土坑・溝		弥生土器・土師器・ 陶器			
相谷下村遺跡	中世							
要 約	<p>相谷熊原遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。相谷寺前遺跡・相谷下村遺跡については、新規に発見された遺跡である。</p> <p>B区とした調査区では縄文晩期中葉段階の土坑墓・土器棺墓からなる墓域を検出したことによって、当該期の墓制のありかたの同様相を窺うことができた。</p> <p>墓域は、約40基の土坑墓・30基の土器棺墓・2,300基以上の小穴・土坑群によって構成され、最初につくられた土坑墓が石組み(B756)・石列を持つもので(B978)、そのあとに続くものは主軸方位・配列に規制を受けながら造られていく状況が読み取れた。続いて土器棺墓が造墓の主体となるが、両者が並行するのか、截然と墓制の切り替えが行われるのか現状では判断できないが、配列という観点で見ると、土坑墓で行われていた線状配列を土器棺墓も当初はそのまま引き継いだようであり、そのあと環状配列へと配列方法を変換させていった可能性が考えられる。</p> <p>G区・H区では縄文中期段階の落とし穴もしくは貯蔵穴状遺構のほかに、草創期の土器・石器の出土が認められた。『相谷熊原遺跡Ⅰ』で報告したD区・E区以外においても、縄文時代草創期の遺構が存在していた可能性を考える必要がある。</p> <p>相谷熊原遺跡を含め、相谷寺前遺跡・相谷下村遺跡でも中世土器の出土が認められたが、遺構に伴うものは少なく、また当該期の明瞭な遺構の検出事例は少なく、特に後者の2遺跡については、現時点では不明な点が多い。</p>							